

茨城県農産物販売推進東京本部情報

令和2年(2020年)2月

1 東京都中央卸売市場(2020年1月)の青果物取扱高について

① 全体の入荷量は約15.3万tで、前年比2%増、金額は約432億円で前年比1%減となった。

② 茨城県産の入荷量は約1.9万tで、前年比4%減、金額は約37億円で前年比4%増となった。

(金額の内訳は、野菜約32億円、果実約5億円。前年同期比で野菜7%増、果実10%減、平年同期比で野菜10%減、果実9%減。)

金額が【増加】した品目(前年対比)：はくさい(162%)、ねぎ(115%)、ほうれんそう(112%)

金額が【減少】した品目(前年対比)：みず菜・きゅうり(86%)、いちご類(90%)

茨城県の青果物入荷量は平年比2%減(シェア12.2%)、取扱金額は同10%減(シェア8.5%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1月計)			
	1月計	年間計	年間比	1月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	2020	152,767		18,642	←シェア(12.2%)		13.2%	8.2%	2.7%	
	2019	150,268	1,916,676	7.8	19,413	222,375	8.7	13.6%	8.0%	3.2%
	(前年比)	102			96	シェア(12.9%)				
	平年値※	153,030	1,954,409	7.8	18,956	227,118	8.3			
	(平年比)	100			98	シェア(12.4%)				
金額	2020	43,176		3,659	←シェア(8.5%)		8.8%	2.5%	7.7%	
	2019	43,739	534,568	8.2	3,516	52,199	6.7	8.9%	3.8%	8.1%
	(前年比)	99			104	シェア(8.0%)				
	平年値※	46,368	565,288	8.2	4,052	57,490	7.0			
	(平年比)	93			90	シェア(8.7%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は2015-2019年の5年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》
2019年実績
(1~12月計)

茨城県：金額シェア(9.8%)、数量シェア(11.6%)
千葉県：金額シェア(7.2%)、数量シェア(10.5%)
北海道：金額シェア(5.8%)、数量シェア(11.0%)
栃木県：金額シェア(6.0%)、数量シェア(3.2%)

2 東京都中央卸売市場(令和2年1月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約18.3千トン(97%)、単価は172円(111%)、金額は約31.6億円(107%)

果実類の入荷量は約0.3千トン(73%)、単価は1,621円(123%)、金額は約5.0億円(90%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成26~30年同月の5年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)				金額(千円)			
		前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比			
野菜	はくさい	11,672	98%	102%	105%	58	165%	81%	82%	675,737	162%	83%
	れんこん	631	99%	98%	98%	456	105%	91%	91%	287,284	104%	89%
	ねぎ	1,251	123%	142%	106%	216	94%	90%	89%	270,594	115%	128%
	こまつな	614	103%	122%	110%	424	106%	92%	88%	260,180	109%	112%
	野菜総計	18,335	97%	99%	101%	172	110%	91%	90%	3,160,465	107%	90%
果実	いちご類	303	73%	73%	81%	1,635	123%	126%	123%	494,951	90%	91%
	果実総計	307	73%	72%	95%	1,621	123%	126%	103%	498,046	90%	91%

(野菜)

暖冬の影響で葉茎菜類や根菜類は生育が良好で数量増の単価安傾向となった。一方果菜類は、西南暖地や関東の日照不足の影響もあり、入荷量が減少し、恵方巻需要のあるきゅうりを中心に単価高となった。本県産のはくさいは、台風や大雨の影響があり例年に比べやや小玉傾向となった。前年が単価大幅安だったこともあり、前年を大きく上回るものの、平年の約2割安と安値傾向が続いた。

(果実)

いちご類は関東・九州共に曇雨天のため数量が伸び悩み、単価高傾向が続いた。みかん類や柿類など、着色の遅れなどから出荷がやや遅れていた品目で入荷量が前年を上回り、全体としては前年・平年をやや下回る程度となった。本県産のいちごも、台風による遅れや曇雨天の影響を受け、数量は前年・平年の73%と少なかった。単価は前年比123%と高単価であったものの、数量減の影響が大きく金額は前年比90%となった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出